



発行所 東京片貝会 東京都江東区高橋5-1-313 電話 (632) 0156

今春も新潟県人会館で

楽しく新年会を

昭和62年1月25日(日)

あかあかと昇る太陽とともに、62年の新年を迎えました。お交りなく、ご健在のことと存じます。本年も、片貝の発展と、互いの健康を祈念して、皆様と一堂に会して、新春を祝いたいと思ひます。お友達に呼びかけ、誘いあつてご出席下さいますよう、ご案内申しあげます。今回も皆様から持ちよりのお年玉を、ご寄贈いただいで、福引をやりたいと思ひます。恐縮ですが、当日お持ち下さいますよう、お願い致します。返信に品名をお書き添えいただければ幸いです。

- 一、日時 62年1月25日(日) 午後一時(正午より受付)
二、会場 東京新潟県人会館(台東区上野1丁目13-6)
三、会費 四〇〇〇円(料理・果物・飲み物・福引)
返信は一月十五日までに到着するようお送り下さい。

同級会だより

十二同志会 10月27日
来年喜寿を迎えるに当り、秋祭りなどに参加するかを話しあつた。深きゆく秋色を賞味。片貝、

東京、酒田から十四名が集つた。十日町市の二ツ屋温泉での楽しい一日間だった。

昭和生会 9月11日
古福で打止め、というところまで

つたが、秋祭りの翌日、東京、大阪の同級生と名残りを惜しむべく西谷の浜海館で、懇親会を盛大に開いた。参加者13名。
昭和生会 11月6日

母校を励ます会の継続について

会長 勝又 功

会員の皆様のご協力のもと、故郷との連帯と、恩慕の念を深める事業の一として、継続して参りました「母校を励ます会」は、当初計画した五か年間の、本年参ります。この間母校への図書の寄贈・記念講演会の開催により、在町の皆様にも大変よろこんでいたいただきましたことを、感謝の意をこめてご報告いたします。去る役員会で、本事業は有意義であり、継続すべきであるとの決定をいたしました。つきましては、これまでの事業を反省するとともに、会の更に充実を図り、より効果的に事業を計画し、実行する決意であります。会員の皆様のご助言と、ご協力をお願い致します。

会の動き

27回総会 5月26日
2面参照-新潟県人会館にて母校を励ます会役員会

今後の会の活動を行う。次回には特集号を発行する。煙火協会の依頼 8月20日
秋祭りの煙火奉納の依頼状を会員に発送

教育感謝祭 10月2日
勝又会長が代表して出席
母校を励ます会講演会 10月13日

5面参照
役員会 11月30日
新年会の計画、名簿発行、今後とも引き続き母校を励ます会を、会の下部組織として運営していくことを決める。秀和会館にて物故者

総会以後、左のお二人が逝去された。深く哀悼の意を表します。
小野留子 (婦人部役員)
安達豊子 (安達市郎氏夫人)

お願ひ
・ 販路の際は忘れなく、新住所をお知らせ下さい。
・ 会の運営に苦勞しています。会報をお送りしても、会費のご協力をいただけない方があります。どうか年会費(二〇〇〇円)のご協力をお願い致します。

本年は新潟市在住の当番で、佐渡旅行を行った。
五十人が参加(男五、女二)して、いつものがらの盛大な行事となった。
来年は長岡の当番になっている。

縁友会

7月5日
水上温泉の松の井ホテルに泊まつて、懇談した。
参加者は46名。うち東京からは16名が出席した。盛会で、和気あふましい一夜を共にした。

本年度の幹事は三浦彌栄さん、ご苦勞様でした。来年度は、太刀川裕さんにお願ひすることになりました。よろしく。鯉崎昭雄

仲友会(昭29卒)
つききの通り同級会を開きます。

日時 昭和62年4月4(土) 5日(日)
場所 新潟県方面
詳細は追ってお知らせ致します。多数のご参加を希望します。

会務 新潟県人会館
関東支部の皆様へは、会費参加して下さい。

予告

若杉会(昭27卒)
左記のような泊旅行を計画しています。

日時 昭和62年4月4(土) 5日(日)
場所 新潟県方面

楽しさいっぱい、賑わいむんむん

春の集い(27回)

東京新潟県人会館 61年5月25日

朝から曇り。祭りはやしの賑やかなメロデーが聞こえてくる。例年五月末に、この町内では祭りがあがる。

会場の都合で、開会がいつもより繰上って、十一時半となった。出席数を心配していたが、ホールはいつものように、ぎっしり片貝人で埋まった。

役員改選

相崎(勇)副会長の開会あいさ



つ。続いて会長により、最近物故された会員内山サカエ、吉原周治(共ニ大卒)二氏に対して黙祷を捧げた。そして、大塚次のような抱負を述べた。

1、会の活動概要は会報でお知らせした通り。
2、総会案内を出して40%の返事がきた。従来より増えたが、更にご協力をいただきたい。
3、現役員は全員留任すると共に、新たに佐藤量八氏を名誉会長に、広井三代次、安達市郎、丸山貴司の三氏には、引続き顧問をお願いしたい。総会の運営は、毎年50歳年次にお願ひし、組織を強化する。
4、30周年記念事業として、会員名簿を発行する。
続いて司会者黒崎正さんの説明で、会計報告が承認された。役員も提案通り可決
図書贈呈(四回目)
母校を励ます会から、小中学校へそれぞれ十万円が贈呈され、来賓の皆さんから、別項のような郷土の現況と祝辞が述べられた。

星野市長、浄照寺様の祝電が披露され、佐藤(彦)副会長の開会のあいさつで、総会は終了した。
楽しさいっぱい
故郷の懐かしい便り、久々に逢った友達と近況を語りあう喜び。会場は和気あいあいのふんいきに満ち溢れた。
十二同志会の佐藤秀治さんが、歌に、踊りに、恒例のしゃりり演奏、最後には木遣りを高らかに合唱して、万才裡に午後四時、会を閉じた。
吉田協議会長
やせかまどの解説が出版されてお礼申し上げます。
小学校校舎が来年度から全面改築になる。中学は六十五年度からなるが、完成すると、今の体育館は町に寄付される。
魚沼線の跡をバイパスにしてもらうよう推進中。
今度公民館長も引受けることになりました。
本田市会議員
サンヨー電子の二期工事が完成した。松下電装の用地もでき、夏から工事にかかる。その隣に、計測機工場ができる予定。
信濃川の発電工事が開始され

た。
妙見塚ができる、長岡へゆくバイパスもできる。
リニアモーター線は雷の克服がネックになっているが、有望。
四尺玉は二発あげたい。ギネスブックにも載り、片貝のPRにもなったことを自負している。
本田農協組合長
農地が整備されて、農業もよくなってきたが、幼時の頃の姿はずっかり変容してしまっただけ。これは近代化の波で、やむを得ないことでもある。
浅田壯太郎先生の命日(4月27日)にやせかまどの出版記念会を農協ホールで開催。売れゆきもよく、喜んでいきます。
柳川小学校長
四月に赴任しました。片貝は歴史と伝統のある町だ、総会に出席して、更にそれを実感した。樅の木のように根張りたい。
運動と読書感想文などで成果があがっている。
児童数は現在四百十四名(12学級)昨年より17名減ったが、来年から少しずつ増える見込み。
佐藤中学校教諭
初代校長松井先生の植えたぼたんが見事に咲いた。
運動では特に球技の成績は、市内のトップ級。三種目に優勝した女子バレー、バスケットは県大会で五位だった。吹奏楽、美術部も頑張っている。
今春93名中、89名が高校へ進学
小林中学PTA会長
学生時代を東京で過ごしたが、久々に出てきて懐かしい。



都会で活躍している皆様へ深く敬意を表し、今後の発展を祈ります。
大刀川特別会員
やせかまどの出版ありがとうございます。
太刀川家の墓は片貝にあり、父

又八郎も成功したひとりと思うが私は片貝生れではない。皆さんのように故郷があつて、こうして集ることを羨しく思う。片貝の発展を切に祈ります。
出席者(七五名)
来賓 8名
お話いただいた前記のほか、県人会より田中義一氏。
会員 67名
○大正
佐藤正雄、高桑キイ、広井三代次、吉原ヤウ、浅田兼次、渡辺左武郎、佐藤量八、相崎尚次、高野朝五郎、大矢福次、佐藤秀治(酒田より)、神林徳次、安達宗吾、三重堀繁蔵、星野三作
○昭和27、10
相崎勇次、小宮孝作、小野塚マツ、小川茂雄、吉井武二、浅田喜八郎、芝、五郎、芋川とし、日下部政子
安達 武、丸山 春、藤塚栄三郎、山口二郎、藤田睦子、石黒佐忠太、佐藤フミ、浅田鉄二、相崎善次郎、吉原彦作、小宮竹次、三重堀新二、黒崎孝造、勝又 功、大矢幸治、芝三四司、佐藤彦一、山口武一郎、武藤睦子、堀井豊作、森本比夫
○昭和11、20
吉原賢策、高橋四郎、広川久美子、浅田 猛、佐藤敏雄、山田敏雄
○昭和21、30
山岸慶昭、黒崎 正、大塚順一、相崎達一、佐藤孝二、小野塚 茂、本田丈夫、山口健二、宮沢道子、友田勝良、吉原武夫、石井恵美子、黒崎 勝、鯉島昭雄
○昭和31、32
藤塚 悟、諸我時夫

会員近況

黒崎敏五郎さん(昭6)
同氏の属している瑞雲書道会はわが国でも有数の団体である。審査員をされており、本年の発表会は次の通り。拓本の造詣も深い。
1、瑞雲新緑展 6月15、21日 上野の森美術館
2、瑞雲公募展 7月1、6日 (21回) 東京都美術館
3、墨游書展 4月3、5日 (9回) 東電横浜ギャラリー
黒崎 勇さん(昭8)
講談社を振出しに、光文社へ転じて、雑誌少年、少女、女性自身の編集長として活躍。鉄腕アトムの手塚治虫を世に出したのも、この人。現在は祥伝社の前社長として、出版界でも重きをなしている。片貝では異色の人である。

お礼とお願い 会の火を燃やし 続けたい

母校を励ます会の今後について

昭和58年に最初の記念講演会を始めてから、今年で五回目を迎えました。

次の総会で、母校へ図書を購入し、最初の企画が二応諾することになります。

そこで、これまでに態度をなく表明してきましたが、今後ともこれを継続していき、という声が、皆さんの中から湧きおこってきました。

四面にある母校の生徒諸君の作文を読んでも、続けて欲しいと熱

望していることが、如何に強いかな分ります。

これに必要な費用は、すべて委員の皆様からの、暖いご協力によるものです。現在までに三十七名(延三十九名)の皆様からいただいたお礼です。事業内容と費用は会計報告の通りです。

講師への旅費や謝礼は、これまでに一切差しあげておらず、すべて先生方の自己負担によっています。ありがたいことです。

先手方にお礼申しあげるとともに、会員諸君から寄せられたこれまでの協力に対して、改めて謝意を表します。

そこで、会費を継続するためには、皆様のこれまでに築かれたお礼のご協力によるほかごいません。どうぞご理解とご支援をお願いします。

前回以後(5月〜12月)ご寄付いただいた方 53名

○大正
福山すま(3) 佐藤正雄(4)
鍋橋ツタ(4) 高野朝五郎(4)
香沢とせ(4) 佐藤貞八(3)
神林マヌ(2) 安達清次(3)
○昭和
山田雅子(3) 小宮孝作
石上健次(3) 相崎善次郎(3)
高橋忠夫(3) 本田寛次郎(2)
武藤肇子(5) 城取八重子(3)

母校を励ます会・会計報告 (自至)		昭和58.5.1	昭和61.12.31
収入	¥1,652,910	支出	¥890,397
基金(延399名)	1,544,200	寄贈図書	800,000(4回)
利息	108,710	講演会	50,000(5回)
		印刷・郵券	40,397
前回以後の内訳 (昭和61.5.1~61.12.31)			
基金(53名)	122,000	図書	200,000(4回目)
利息	17,053	講演会	10,000(5回目)
[現在高]	782,513]	印刷・郵券	3,547

記念講演をふり返る



- 堀井博作(3) 長野チイ
- 大塚文雄(2)
- 昭和11・20
- 相崎光夫(2) 大矢信吉(2)
- 内山キミ(3) 横田トシ(3)
- 関 啓子(3) 中野多美子(4)
- 畑谷登志、谷野知子、太刀川三郎
- 小宮八重(2) 香木代代(3)
- 丹治きみ(4)
- 昭和21・30
- 相沢キミ 市下トミ 小野塚正司
- 山本文子(2) 大塚肇子(2)
- 野田正輝、新沢須美 丸山文雄
- 相山亨二(3) 小川エチ子(2)

- 小高 君(2) 石井恵美子(2)
- 久賀友作(2) 小川裕子(3)
- 大塚 清
- 昭和31・40
- 田口 操(3) 鶴我時夫(2)
- 稱川恵子(2) 藤坂ミツ(2)
- 渡辺信夫(2) 佐藤 貞
- 昭和43
- 内藤富美子(3)

- 第1回 安達生信先生 食糧問題とエネルギー 57・11・8
これまでの食生活を見直し、厚手刀に重点をおくエネルギー政策を再検討しよう。(前副理事長・社会科学研究所長)
- 第2回 永井正雄先生 心と体 58・11・22
其の健康は、単なる体づくりを自らでだけでなく、心の安定と正しさが伴ってこそ可能となる。(日本医大・医師)
- 第3回 佐藤祐一先生 基礎研究から製品まで 59・11・17
新製品を世に出すまでの苦心と、海外視察によるインスピレーションを通して、これからは国際人としての教養を高めよう、と語る(東京研究所所長・理博)
- 第4回 小野野先生 私の好きな若者、嫌いな若者 60・11・1
先生の病院で働く人を中心に、現代の若者を観察し、よき社会人のあり方を語る。(国立がんセンター頭頸部長・医師)
- 第5回 川上昭吾先生 私の歩んできた道 61・10・13
(五面参照)(愛知教育大助教・理博)

笑輪みね先生より
時時を置いて始めて、丁度最初の発表会の日と重なり、春の集いに出席できなくなりました。来年はぜひ皆さんにお会いできますように念じています。

会員の声(敬称略)
丸山フジ(昭39)
最近腰痛が特にひどくなり、無理ができなくなりました。高橋ミサ(大6)足を痛めまして、総会には出席できません。皆様によろしく。品田軍治(大6)準備しています。ごちへお出での時はぜひおよの下さい。松井平助(大6)22年前にかかったスモン病が悪化して入院加療中です。皆さんによろしく。福山すま(大6)皆様のお骨折りで、いつも片貝会の仲間入りができていくことをお礼申しあげます。山崎キイ(大6)元気に過ごしています。石上リヤウ(大10)漸く体調もよくなりましたが、まだ出かける勇気が出ません。今暫く自粛したく存じます。黒崎 勇(昭6)老来65歳、いまだに現役をやっていますので、なかなか都合がつかえません。会の発展を祈ります。吉原菊枝(昭6)会報をお送りいただきありがとうございます。会費を始めお役の方々に、今後よろしく。

方々に、今後よろしく。
川崎大郎にお参りの時は、お立ち下さい。
畑谷登志(昭13)ふるさと便りをなつかしく拝見しています。
山岸雪子(昭22)ふるさとの違う主人ですが、会報を熱心に読ませていただいています。
吉原栄一(昭22)故郷の心暖まるニュースを、お知らせいただき、大変なつがしく又友のこと、先輩、先生、親戚のことなど、思いめぐらせておられます。
安藤真理子(昭26)新年会では、大変お世話になりました。ありがとうございます。楽しい一日を過ごさせていただきました。
松岡規子(昭27)二十三年ぶりで、近々のお年寄りの病院に始め始めました。いろいろご恩ある人達のごとも思い合わせ、頑張りたいたいと思います。吉原武夫(昭28)始めてご連絡いただき、うれしく思っています。興なしの方も多いうので、ぜひ出席の予定です。大塚 清(昭29)やせかまを返っていたときありがたく思います。会報もうれしく拝見しています。内藤富美子(昭43)育后に追われる毎日、残念ながら会合にも欠席しています。会報はいつも楽しく読ませていただいています。今後よろしく。

洋々文庫へのつきない思い

前片貝小学校長 田口 信

片貝小学校在任中の忘れ得ない思い出に、「洋々文庫」のことがあります。母校を励ます会の皆様のお心のおかげで、この文庫に込められているからです。

佐藤祐一会長さんが、校歌の一節「洋々として流れぬく……」に託されて名付けられた。皆様方の母校愛、既習による人間形成への大なる期待が、胸を打つからです。皆様の尊い浄財にお応えすべく、図書館にこの文庫を特設し、必随図として児童に既習奨励を展開してきたことが、改めて有り

小学生のこえ

これからも続けて

五年 安達理恵子
東京片貝会のことを、お父さんに聞きました。

この会は、東京に行っている片貝の人達の集まりで、知らない人達の中で、一人でなやんだり、困った時の相談相手になるということだそうです。

一年に何回か集って、いろいろな人と友達になる機会を作ったり片貝のことや、会員のニュースをのせた新聞を発行して、配っているそうです。

私も大人になった時、東京に行くかも知れないので、その時に助

障く思いついて出されてきます。裏心より感謝申し上げます。

昨年、児童生徒の「活字離れ」が指摘され、それが、「思考力や知的好奇心、豊かな情操の低下を生む」という警鐘を鳴らします。

愛する片貝児童達が、洋々文庫で「学力と豊かさを育てる読書体験」を充実して、二十一世紀を賢く、豊かに、逞しく切り拓いていく人間になつてほしいと、在任中の皆様方のご厚情に感謝しながら、折念じています。

あるし、みんなのためになることは良いことだし、こういう会があるのは良いことだと思つたので、これからも続けて下さい。

ありがとうございます

五年 黒崎 美貴

洋々文庫はいつも向けなく借りていた本だったけど、今日先生から聞いて、大切に読まなければいけないと思ひました。だって、あの洋々文庫は、東京片貝会の人達が寄付してくれた本だったからです。

自然のことを書いてある本が好きです。「森で生まれたきのこ」では、いろんなきのこがあることがわかりました。

お父さんが山からとってきて食べたことのあるきのこもありま

した。私はきのこが好きだから、「こんな所によくきのこが出てくるんだって」と、お父さんに教えてやって、いっぱいらとてきてもらいたいです。

「土との対話」という本で、土は、上に住んでいる植物や動物によつて性質がかわること。動物やごん虫がよくいる所の土は、厚くなっている……など、いろいろなことがわかりました。

洋々文庫のこと

五年 佐藤 靖之

洋々文庫の本を読んで、おもしろいな、おもしろいな、なるほどなあと思ひています。東京片貝会のみなさんは、僕達がよい大人になつてほしいと願つて、お金を送つて下さつたそうです。僕もみなさんにみならつて、みんなに好かれる人になりたいと思ひています。僕も大人になったら、東京片貝会みたいな会があれば、進んで参加したいです。

東京片貝会のみなさん、時々ふさふさに帰つてきて、東京とちがう片貝の自然のこと、花火のことも忘れないで下さい。

先ばい！に続こう

六年 郷 千里

洋々文庫には、私の好きな昆虫や植物の本がたくさんあって、よく使わせてもらっています。この文庫は、東京片貝会の人達の寄贈であることも、教えてもらいま

た。五年の時に、こうえん会の話を聞きました。その人達は、みんな片貝小、中学校を卒業した先ばいで、現在いろいろな所で、自分の仕事をがんばつていらつしやる方達でした。

その時、私達がたくさん本を眺めるように送つて下さつて居るのは、こういう人達なのか、とよく分かりました。

遠くへ行つても、こうして何年間もえん助して下さいということや、母校を思い続けて、わざわざたすねて来てくれて居ることは、とてもうれしくて、後はいとしてものがん張ろう、という気になります。来年は中学へ進みます。先ばいを目標にして、がんばつていこうと思つています。

もみの木のように、洋々文庫の本は、どれもためになる本ばかりです。

六年 山口 和芳

植物や物置など、いろいろな種類があつておもしろいです。一冊でもよけいに読んで、力をつけたいです。

講演会では、先ばい達が社会で活やくしている、今までの生き方を聞かせてくれました。いろいろ苦勞して、ここまでやってきたんだなあ、苦勞すれば、苦勞するほど自分がよくなつていく、と教えてくれたような気がします。

東京へ行つていても、片貝のことを忘れないでいるということが自分の生まれ育つたふるさとが、好きだからだと思ひます。

もみの木のように、伸びてもらいたいという、願ひがあるからだと思ひます。僕もがんばります。これからも、ずっと続けていってもらいたいです。

中学生の声

勉強の町、

スポーツの町

一年 小野塚健悟
東京片貝会の人達が、図書館へたくさんのお金を入して下さいました。僕達は、この本を活用に利用することによつて、感謝の気持ちを表わしたいと思ひます。

片貝は、勉強の町、スポーツの町といわれています。運動に関する用具なども、こう入してもらえれば、と思ひます。片貝が、勉強の町であり、またスポーツの町であるなら、その二つの面が両立してこそ、いっそう発展していくと思ひます。

今日は良い講演を聞かせていただきまして、とてもありがたかったです。

大きなアドバイス

二年 浅田 友則

毎年、東京片貝会のみなさんから、私達に教育講演会を開いてもらっています。

先生方ご自身が歩いてこられた道は、私達の進むべき道への、大きなアドバイスになっていきます。先生方の専門的な知識は、本

当にためになります。僕は小学校の時から聞いていますが、東京片貝会の人へ、感謝しなくてはなりません。

そして、先生方のように、将来日本をしょつたつたような、大人にならなければならぬと思つていきます。

すばらしい先輩達

三年 太田 浩一
ありがとうございます。これが東京片貝会の皆様に対する純粋な気持ちです。

卒業しても、母校のことを忘れず、お金を寄付して下さい。講演会を開いて下さつたり、本堂に感謝せよといはられませんが、こんなに多くの先輩が、日本のために働いてるのだと思うと、本當にすごいなあと思ひさせられます。貴重な人生の体験談は、僕達のことからの人生の中で、きつと役立つと思ひます。

もし僕が、東京に住むようになったら、東京片貝会に入っているでしょう。そして、僕も母校に協力し、発展させるようにしたいと思ひます。

お金を集めるのは、並たいていことではないでしょう。自分で汗を流して働いて得たお金を、母校のために寄付して下さるので、しかも今回で四回にもなります。本堂に素晴らしいことと思ひます。

僕達は片貝中学校を卒業しても母校のことを忘れず、先輩方に少しでも協力して、もっと発展させるよう努力したい、と思ひます。